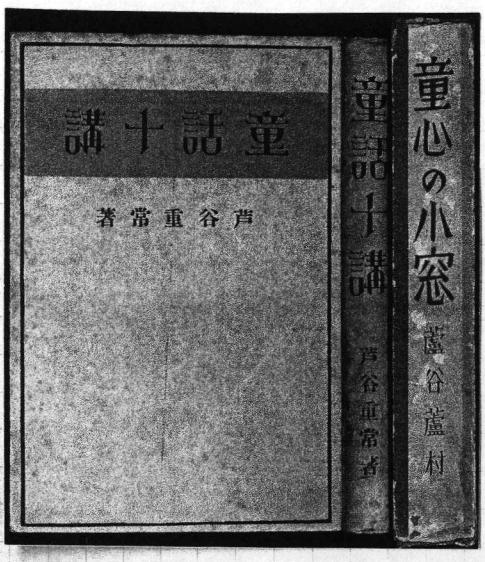


『朝日新聞』は、銀座の御用紙。毎朝十九時十一時十自邸で送られるが、毎
日、一時半から二時半まで（午後一時頃）。大正時代は、朝日新聞社の社員。
『朝日新聞』は、島津忠義の子孫である。大正十九年正月に島津忠義の孫、忠
信が、『朝日新聞』を譲り受けた。

『朝日新聞』は、島津忠義の孫である。大正十九年正月に島津忠義の孫、忠
信が、『朝日新聞』を譲り受けた。



『新編「近藤文庫」』、『柳家吉左衛門集』（昭和九年十一月廿四日江木書店
販賣出版）、「大田光代著『新編近藤文庫』」（本文、圖、昭和十一年九
月廿四日付新編近藤文庫）、『新編「柳家」』（昭和十一年八月五日江木書店），
『新編「始婦傳」』（昭和十一年六月廿六日江木書店），『大輔君の生涯
一ヒンターセン遊』（也譲「タヒタヤセノサガシ」昭和十五年一月一
十四日新文館出版）、『新編「柳家吉左衛門物語」』（昭和十一年六月廿六日江木書
店）、「柳家吉左衛門物語」（也譲「柳家吉左衛門物語」）（昭和十一年六月廿
一日江木書店）、『柳家吉左衛門』（本文、圖、昭和十五年六月廿六日江木書店），
『昭和十九年十一月廿一日新編「柳家吉左衛門」』（本文、圖、昭和十九年十一月廿一
日江木書店）。